

防衛大学校本科第21期学生及び理工学研究科第14期学生
卒業式における学校長式辞（昭和52年3月27日）

防衛大学校本科第21期学生及び理工学研究科第14期学生の卒業式を行うに当たりまして、福田内閣総理大臣^{注(1)}、河野参議院議長^{注(2)}、三原防衛庁長官^{注(3)}、園田内閣官房長官^{注(4)}をはじめ、内外から多数の来賓並びに父兄の方々の御臨席をえましたことは、卒業生はもとより、防衛大学校にとりまして無上の光栄と存じます。教職員と学生一同に代り、来賓各位の御厚意と父兄の方々の御熱意とに対し、心から御礼申し上げる次第であります。

今回、卒業の栄をにないます学生は、本科491名、理工学研究科75名であります。卒業生諸君の在学中における努力と精進とに敬意を表しますと共に、この際、卒業生諸君の洋々たる前途を祝福して、はなむけの言葉を呈したいと思います。

本科並びに理工学研究科の卒業生諸君に対して、私は何よりもまず人間としての成長を望みます。科学的な思考力を養い、豊かな人間性をつちかうという本校の教育方針は、時代を超越して妥当します。卒業は諸君の一生における一つの区切りですが、到達点というよりはむしろ出発点というべきでしょう。

第二に私は、卒業生諸君が防衛の専門職としての途に徹することを期待します。防衛の学と術とは深遠きわまりなく、その修得と錬磨に、また研究と開発には、限度というものがありません。精密誘導兵器や巡航ミサイル等の例を見ましても、防衛力をめぐる国際競争のすさまじさは驚嘆に値します。21世紀の挑戦はすでにはじまっているのです。防衛の分野において、この挑戦に応えることは、まさに男子の本懐といわなければなりません。

第三に私は、諸君が日本国の防衛力を直接間接に運用する幹部自衛官としての職能倫



第3代学校長 猪木 正道

注(1) 福田赳夫

注(2) 河野謙三

注(3) 三原朝雄

注(4) 園田 直

理を強く自覚されることを求めたいのであります。防衛力は物理的には強大な破壊力という一面を持っています。この実力を操作するものが、高度の倫理的責任感に貫かれているのでなければ、その重大な使命を果すことができないばかりか、日本国の威信を傷つける^{おそ}恐れさえあります。

わが自衛隊は、日本国の領土、領海及び領空の平和と安全に責任を負っていますが、国際社会が百数十の主権国家によって構成されている現状の下では、自衛隊は日本国の主権と独立を守ることにより、国際社会の平和と安全とに対しても重大な義務を果しているわけであります。

本科並びに理工学研究科の卒業生諸君が、この崇高な使命感に基づき、今後たえざる研鑽と錬磨とを通じて、わが自衛隊の将来を背負うことを祈念して、私の式辞を終わります。